



ずっとずっと忘れない。

記念誌に つづる 母校への思い

128年の歴史に幕を閉じる鳥茂渡小学校。閉校記念事業として「閉校記念誌さわやかとりもく未来に向かって」を発刊しました。そこには母校でのたくさんの忘れられない思い出がつづられています。

記念誌はA4判155ページ。思い出がつづられたアルバムを開くと、昭和21年に建てられた校舎の写真ではじまり、校歌や校旗などの写真が目を引きまします。

「閉校に寄せて」では、これまでの校長先生や教職員、歴代PTA会長、卒業生、8人の在校生など84人が過ごしたその時代時代の思い出がつづられています。

「写真で見る128年の歴史」では、昭和20年代の集合

写真から現在の卒業生、昭和30年代のにぎわった運動会や学習発表会での劇の様子など約100枚の写真をつづっています。

今年3月31日で128年の歴史に幕を閉じ閉校する鳥茂渡小学校。今後は空校舎の活用などを考えていかなければなりません。

これからはみんなが集える場に、地域の交流の場として鳥茂渡地区は129年目の新たな第1歩を歩みます。



鳥茂渡小学校との出会い

教諭
田代育子さん(33)

着任早々、屋上から見た自然の雄大さにはただただ驚いた。次に驚いたのは学区民運動会。地域の方のほかにも多方面からの参加があり、活気に満ちあふれた行事だったのだ。学校の校庭にはたくさんの笑顔があった。地域の方々にはさまざまな学習活動においても協力していただいた。子どもたちのことを第1に考え、積極的に取り組んでくださった皆さんには感謝の気持ちでいっぱいである。鳥茂渡小学校は子どもたちと地域の方々、応援して下さる方が集まって協力してつくりあげた「学校」なのだと思う。鳥茂渡小学校との出会い、たくさんの思い出をこれからも大切にしたい。



私と鳥茂渡小学校

PTA会長
高屋敷久人さん(48)

実はわが家は子どもたち4人と私と、そして私の両親と祖父も同校の卒業生という、親子4代のご縁がありました。私の時代は木造校舎でしたが、今は鉄筋コンクリート2階建ての校舎に生まれ変わり、外観はすっかり変わってしまいました。でも長年の間に培われた伝統は、しっかりと根付いていたと思います。

学校から村の行事まで常に地域の皆様とPTAと子どもたちとが一体となって取り組んできました。子どもたちは伸び伸びと育ち、人として生きるための知恵を授けてもらいました。そして次は自分たちがそうした役割を担う、地域の一員だと十分に自覚していると思います。

鳥茂渡小学校の主な沿革

- 明治11年6月：菅渡、菅生、萩牛、落合の4地区を学区に、山崎忠蔵宅借用校舎とする
- 同21年4月：菅渡簡易小学校と改称
- 同34年6月：鳥茂渡尋常小学校創設（鳥居・茂市・菅渡の3分教所を統合。中村岩蔵宅を借用校舎とする）
- 同40年6月：学校位置を菅渡地区へ移転（現在の位置）
- 同41年5月：校舎新築移転（所在地は普代村第28地割字菅生75番地1）
- 同42年3月：初代校長 熊谷哲之助先生着任。6学年の単級となる
- 昭和16年4月：鳥茂渡国民学校と改称。初等科を置く